

将来の亀岡のイメージ（文章パターン）

1 生活環境・快適環境

亀岡では環境に配慮したまちづくりの制度が進み、周囲の景観に解け込んだ城下町のたたずまい、中心市街地のにぎわい、農村部での農作物の豊かな実り、それぞれの地域の特徴を生かしたまちとして整備されています。

人々は散策やサイクリングを楽しみ、公園や川辺でゆったりと過ごしながら、環境と健康に配慮したライフスタイルが主流になっています。

安心・安全のまちづくりを進めるため、大人も子どももお互いを思いやりながら、より良い環境づくりについて実践しています。

企業の環境配慮も定着し、市民や市とともに協働による環境まちづくりに取り組んでいます。

2 資源循環・廃棄物対策

市内の生ごみからつくられた堆肥で、有機野菜や草花が育てられています。

商店では、買物袋を持った人たちが必要な分だけ買っていきます。

亀岡では、すべての市民・事業者に「ごみを出さない」ことが意識づけられ、「リサイクルよりもリユース」を大切にする生活に変わり、排出されるごみもめっきり少なくなりました。

それぞれの地域では住民あげての美化活動が盛んに行われ、ごみのポイ捨てや不法投棄もなくなり、美しいまちになっています。

3 自然環境

豊かな緑に囲まれた亀岡では、澄んだ空気の中で鳥のさえずりが聞こえ、水のきれいな川にはアユモドキをはじめとする多様な魚たちが泳いでいます。

里山では、市内外の人たちが集まり、間伐材の切り出しや植林作業など山の手入れに汗を流し、談笑しながら食事をしたり、レクリエーションを楽しみながらゆったりとした時間を過ごしています。また子どもたちは、野や山で様々な昆虫等の生き物との触れ合いを楽しみ、夜には市内の各河川でホタルのイルミネーションが競い合っています。

豊かな自然を活用したエコ農業が盛んで、各地の朝市で新鮮な野菜が販売され、地産地消の仕組みもゆきわたっています。

4 地球環境・温暖化対策

太陽光発電や太陽熱利用等の自然エネルギーが各家庭、各企業や公共施設に導入され、エネルギーの自給率も高くなりました。

省エネルギー型の製品が普及したうえ、みどりのカーテンなどで省エネ対策に取り組む家庭があちらこちらに見受けられます。

まちの中心部では公共交通が整備され自動車に乗ることが少なくなり、バスや自転車で通勤・通学をする人が増え、周辺部を走る車も電気自動車や自然エネルギーを利用した自動車が多くなり騒音や排気ガスのないまちになりました。

集会所ではボランティアスタッフによる環境イベントが開かれ、地球環境にやさしいライフスタイルについて議論したり、星空観察などを体験しています。